様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：２８００３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ０３１５６

研究課題名（和文）国民国家建設期の東南アジアにおけるマレー・ムスリムのネットワーク

研究課題名（英文）Malay Muslim network in the process of nation-building of Southeast Asia

研究代表者
坪井　祐司（Tsuboi, Yuji）

名桜大学・国際学部・上級准教授

研究者番号：７０５６５７９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：1950、1960年代のマラヤ・シンガポールで発行されたマレー語定期刊行物とそれをとりまく言論空間の分析を通じて、脱植民地化に際してどのような国家・社会の枠組みが提示されたのかを分析した。
月刊誌『カラム』をめぐる引用やテキスト連関の分析から、東南アジアのマレー・ムスリム知識人が中東のイスラム改革思想やインドネシアのイスラム運動を参照しつつ、近代主義的なイスラム国家構想を抱いたことを明らかにした。脱植民地化は植民地統治がもたらした領域枠組みにもとづくナショナリズムに強く規定されつつも、イスラム主義をマラヤの多民族・多宗教社会の文脈に落とし込み、代替的な国家構想を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
マラヤやインドネシアの独立は、従来各国ごとに、独立後の主導権を握ったナショナリストの視角から叙述されてきたが、言論空間では活発な議論がなされており、野党の立場から越境的な国家構想を示した側に焦点を当てることで、脱植民地化には複線的な相互作用が含まれることを明らかにした。
1950、1960年代におけるイスラムやマレー・インドネシア語を通じた国境を越えるネットワークの存在は、その後の1970年代以降のマレーシアやインドネシアの「イスラム化」の底流を明らかにすることにつながる。
植民地近代性と越境的なネットワークが連動しながら展開される島嶼部東南アジア史に新たな視角を提示したと考えられる。

研究成果の概要（英文）：Through an analysis of Malay periodicals published in Malaya and Singapore from the 1950s to the 1960s and the media space surrounding them, this study revealed what kind of vision for the nation and society were presented at the time of decolonization.
In particular, through the analysis of quotations and the inter-textuality in the monthly magazine Qalam, it was shown that Malay-Muslim intellectuals in Southeast Asia had developed their own modernist vision of the Islamic state, referring to Islamic reformist thought in the Middle East and the Islamic movement in Indonesia. While decolonization was strongly defined by nationalism based on the territorial framework brought about by colonial rule, they put Islamism into the context of Malayan multi-ethnic and multi-religious society and proposed an alternative concept of the state and nation.

研究分野：マレーシア近現代史

キーワード：マラヤ　マレー語　民族　メディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1) 本研究課題は、1950、1960 年代のマレー語定期刊行物の分析を通じて、島嶼部東南アジアの脱植民地化過程におけるムスリム知識人の言論活動の意義を再検討することを目的とした。第二次世界大戦後から 1960 年代にかけての東南アジアのイスラム主義勢力による言論活動は、これまで十分に位置づけられてきていない。各国の独立の主導権を握った民族主義勢力と対比されて、政治闘争に敗れた存在として過小評価されがちであった。

(2) 近年進展を見せている東南アジアのイスラム研究の多くは、人の移動が自由であった第二次大戦以前と、インドネシアやマレーシアで「イスラム化」が進展した 1970 年代以降に集中している。通時代的な理解のためには、1950、1960 年代の研究蓄積が必要である。

(3) このため、本研究課題では、1950 年から 1969 年にかけてシンガポールで発行されたジャウィ（アラビア文字表記のマレー語）の月刊誌『カラム（Qalam）』をめぐる言論空間を分析の中心に据えた。マレー語の言論空間には多様な出自を持つ人びとが集まり、そこでの議論を通じてマレー民族という概念や独立後の国家構想が形成された。同誌が参加した政治的論争に関して、他媒体の引用やテキストの連関をたどることで、反対意見を含めた言論空間の全体像を明らかにすることを目指した。

２．研究の目的

(1) マレー・インドネシア語の言論空間の分析：当時の定期刊行物は頻繁な相互参照が特徴であり、『カラム』も他媒体からの引用が多くみられる。脱植民地化をめぐる民族主義者とイスラム主義者との論争に注目してムスリムの言論状況全体を検討し、マレー・インドネシア語が共有されているマラヤ、シンガポール、インドネシアの各地の議論の連動性を明らかにする。

(2) 言論を通じた多民族社会のあり方の解明：東南アジアは多民族社会であり、マレー・ムスリムは常に他者との関係を意識していた。言論空間においては、ときに言語をまたいだ論争も行われた。引用関係や同じ論点をめぐる見解の相違に注目することで、ムスリムと非ムスリムの関係性やムスリム自身の多民族社会に対する認識を明らかにする。

(3) 政治・社会史の再検討：東南アジアの各国が独立し、権威主義体制へ移行するまでの 1950、1960 年代は、多様な言論により国家構想が議論された時期であった。ムスリムをめぐる政治や行政制度に関する議論の展開を追うことで、新たな国家建設における意見の多様性と、それが収斂していく過程を明らかにする。

３．研究の方法

(1) マレー・インドネシア語定期刊行物の包括的な利用：『カラム』を中心としつつ、その引用・参照をめぐる関係性を分析する。マレー・インドネシア語の定期刊行物は、これまで単体として扱われてきたが、本研究課題では媒体間の引用に着目し、一つの資料群としてテキスト間の連関を分析することでその包括的な利用を試みる。そのうえで、前後の時代との連続性を視野に入れてマレー語の言論空間の展開の過程を明らかにする。

(2) 国民国家を横断したネットワークの分析：1950、1960 年代の島嶼部東南アジアの先行研究はおおむねマラヤ、インドネシアといった国民国家に収斂するもので、両者の関係性や国境を横断する運動は十分に明らかにされていない。『カラム』は国境を越えた政治的連帯を主張し、マラヤ、インドネシアの政権に批判的な論説を展開していた。本研究課題では、マレー・ムスリムの視角からこの時期の歴史を描くことを試みる。

(3) 共同研究（国内）：マレー・インドネシア語の言論空間の総合的な分析のため、マレーシア研究者とインドネシア研究者の共同研究体制を構築する。マラヤに関しては、代表者に加えて、マレーシアの政治史を専門とする山本博之（京都大学）、イスラムを専門とする光成歩（津田塾大学）を協力者として行う。そして、華人研究を専門とする篠崎香織（北九州市立大学）、ボルネオを専門とする金子奈央（長崎外国語大学）の協力も得ることで、マレーシア史の総合的な研究とする。インドネシアに関しては、イスラム史を専門とする山口元樹（京都大学）、イスラム運動を専門とする野中葉（慶應義塾大学）、アチェを専門とする西芳実（京都大学）を協力者とする。また、情報学を専門とする亀田尭宙（京都大学）にデータベースに関して協力を仰ぐ。

(4) 共同研究（国外）：研究対象地域であるマレーシア、シンガポールの研究者・学術機関との共同研究を行う。マレーシアについては、マレーシア・ジャウィ・アカデミー（Akademi Jawi Malaysia）、言語図書局（Dewan Bahasa dan Pustaka）、マレーシア国立図書館と史料のデジタル化や共有に関して提携を進める。

４．研究成果
(1) 研究期間を通して、著書 3 点（うち共編著 2)、学術論文 11 点、学会発表 6 回（うち国際学会 4 回）の研究成果をあげた。

(2) 京都大学東南アジア地域研究研究所・CIRAS センターにおいて、『カラム』に関する共同研究「東南アジアの国民国家形成過程における民族・宗教の対立」(2017～2018 年度)、「東南アジアの脱植民地化におけるイスラムと政治」(2019 年度）を研究代表者として組織した。上記 3（3)の研究協力者とともに、『カラム』雑誌記事データベース(http://majalahqalam.kyoto.jp/)を活用し、各自の専門にもとづいて同誌の内容の分析を行った。共同研究の成果として、4 編のディスカッションペーパー（『カラムの時代 IX～XII』）を発行し、うち 2 編で共編者とつとめるとともに、あわせて 4 編の論文を寄稿した。成果の内容は、以下の（3）～（5）である。

(3) マレー・ムスリム知識人の国家構想:『カラム』の政治関連の記事の通時的な分析を通じて、東南アジアの脱植民地化の過程において、イスラム知識人がマラヤ、シンガポール、インドネシアの各国の情勢を注視し、状況に応じた代案を提示していたことを明らかにした。彼らは、国境を越えた連帯を訴えつつも、各地の現状をふまえ世俗的な民族主義者を批判する勢力を支援した。野党勢力はこうしたマレー語メディアによってつながっており、各地の政治過程には連動性がみられる。この点は、2017 年のマレー世界に関する国際学会での発表や、東南アジアのイスラムに関する論集に寄稿した論考（2018）で明らかにした。

(4) 代替案としてのイスラム国家：『カラム』の国民国家への代替案としての「イスラム国家」を明らかにした。彼らの構想する「イスラム国家」は植民地がもたらした国家の枠組みをイスラム化するという近代主義的な内容であったことを明らかにした。その内容には、中東のアラビア語の言説の翻訳やインドネシアにおける記事の引用がみられ、そうしたイスラム主義の思想の影響を受けつつも、マラヤの多民族社会にあったイスラム国家の構想が提示された。この内容は、2021 年 8 月の第 12 回マレーシア研究会会議（MSC12）において発表し、その論文は、同学会の E プロシーティングスに採録された。

(5) イスラム知識の伝達とムスリム社会：『カラム』の名物コーナーである読者の質問に編集部が回答する Q&A コーナー「千一問」の分析を通じて、イスラム知識人の思想がムスリム社会全般にどのように受容されたを分析した。コーランの引用のやり方や政治とイスラムをめぐる質問を分析した結果、イスラム知識人は、自然科学の説明や現代政治の論理付けにコーランを利用し、近代科学とイスラムを総合して多くの事象を説明したことから、彼らのイスラム近代主義的な価値観を明らかにした。これらの論考は、上記のディスカッションペーパーに発表した。

(6) 東南アジアのイスラム主義の系譜：1930 年代のクアラルンプルで発行された新聞『マジュリス』の分析を行い、第二次世界大戦の前後を通じた英領マラヤにおけるマレー語ジャーナリズムとそれを取り巻く言論空間についての通時的な分析を目指した。そこから、同紙がマラヤおよびイギリスの英語紙およびスマトラのインドネシア語紙を頻繁に引用し、言語や政治的境界をまたいだ言論空間を形成していたことを示した。それらは、『史苑』79-1 号（2019 年)、東洋文庫（2020 年)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（2021 年）の共同研究における論集への寄稿などの成果となった。『カラム』の研究とあわせて、マレー語の定期刊行物が、戦前・戦後を通じて越境的な言論空間を形成しながら、マレー・ムスリムコミュニティの内外に独自の思想を発信していたことを明らかにした。

(7) その他：マラヤにおけるイギリスの植民地統治の思想について、シンガポールの建設者ラッフルズの生涯を東南アジア史およびマレー人の社会という視角から描いた書籍（山川世界史リブレット人シリーズ）を刊行した。そして、日本シンガポール協会の会誌『シンガポール』に連載記事を 4 編寄稿し、シンガポールの現在のランドマークと町の建設者ラッフルズの事績をからめて歴史を解説するとともに、ラッフルズに代表される 19 世紀イギリスの価値観が現在にまでシンガポール・マレーシアの社会に影響を与えていることを指摘した。

(8) 成果を通じて明らかになった点は、下記の通りである。
・マラヤのマレー語定期刊行物は、言語を共有するインドネシア、植民地宗主国のイギリス、イスラムの中心である中東の情勢や言説に関心を払っていた。イギリス統治下におけるマラヤ・シンガポールのマレー・ムスリムが地元のマレー語世界、イスラム世界、イギリスの植民地近代世界という 3 つの世界をマレー語言説によってつなぐ役割を果たしていた。
・イスラム知識人は、多民族社会におけるイスラム国家を模索した。民族主義者への対案の提示を通じて、非ムスリムを含めた他者を包含したマラヤの多民族の政治秩序を構築しようとしたことを示し、複数の宗教が共存する東南アジアのあり方を明らかにした。
・国境をまたいで展開された言論空間の分析を通じて、東南アジアにおけるイスラム運動の系譜を明らかにするとともに、中東からの影響が強調されがちな「イスラム化」の基礎的条件としての東南アジアの内的な要素の重要性を示した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計11件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Tsuboi Yuji	４．巻 3
２．論文標題 The World View of Malay Nationalists during the 1930s: Their Perspective on Conflicts in Multiethnic Society	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Ikuya TOKORO and Hisao TOMIZAWA (eds). Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia (vol.3)	６．最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 坪井　祐司	４．巻 12
２．論文標題 「千一問」におけるコーランの引用	５．発行年 2021年
３．雑誌名 光成歩、山本博之編『『カラム』の時代XII：マレー・イスラム世界の社会変容と女性』京都大学東南アジア地域研究研究所	６．最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 坪井　祐司	４．巻 285
２．論文標題 ラッフルズとシンガポール（2）	５．発行年 2020年
３．雑誌名 シンガポール	６．最初と最後の頁 59-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 坪井　祐司	４．巻 286
２．論文標題 ラッフルズとシンガポール（3）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 シンガポール	６．最初と最後の頁 42-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tsuboi Yuji	4．巻 1
2．論文標題 The Formation of Malayness in the Urban Space of Colonial Kuala Lumpur	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Hirosue Masashi (ed). A History of the Social Integration of Visitors, Migrants and Colonizers in Southeast Asia: Role of Local Collaborators. Toyo Bunko	6．最初と最後の頁 193-210
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 坪井　祐司	4．巻 11
2．論文標題 『カラム』からみたイスラム国家構想	5．発行年 2020年
3．雑誌名 光成歩、山本 博之編『カラムの時代 XI ：マレー・イスラム世界の女性と近代』 京都大学東南アジア地域研究研究所	6．最初と最後の頁 45-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 坪井　祐司	4．巻 284
2．論文標題 ラッフルズとシンガポール（1）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 シンガポール	6．最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 坪井　祐司	4．巻 1
2．論文標題 みんぱく図書室のOWC分類について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 U-PARL編『図書館がつなぐアジアの知』	6．最初と最後の頁 109-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 坪井祐司	4．巻 79-1
2．論文標題 一九三〇年代のマレー・ナショナリズムからみたインドネシア	5．発行年 2019年
3．雑誌名 史苑	6．最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tsuboi Yuji	4．巻 1
2．論文標題 Contestation of Visions for the Malayan Decolonisation in the Malay Media Space	5．発行年 2017年
3．雑誌名 The Malay World: Connecting the Past and the Present	6．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Tsuboi Yuji	4．巻 1
2．論文標題 An alternative vision of Malayan decolonisation from the perspective of Muslim intellectuals in Singapore	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia (Vol.2)：Perspectives from Indonesia, Malaysia, the Philippines, Thailand, and Cambodia	6．最初と最後の頁 147-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　1件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 Tsuboi Yuji
2．発表標題 Manchuria, Palestine and Malaya from the perspective of Malay nationalists during the 1930s
3．学会等名 The 11th International Conference for Asian Scholars (ICAS11)（国際学会）
4．発表年 2020年

１．発表者名 Tsuboi Yuji
２．発表標題 Politics around the Malay Sultanate in British Malaya during the 1930s: Multilingual Media Space as Political Arena
３．学会等名 11th Malaysian Studies Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tsuboi Yuji
２．発表標題 The perception of disaster of Malay Muslim intellectuals in Singapore during the 1950s and 1960s
３．学会等名 International Workshop on "Human response to Disaster in Southeast Asia"（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tsuboi Yuji
２．発表標題 Contestation of Visions for the Malayan Decolonisation in the Malay Media Space
３．学会等名 The Malay World: Connecting the past and the present, 4th International Conference of the International Council for Historical and Cultural Co-operation-Southeast Asia（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 坪井祐司
２．発表標題 1930年代のマレー民族主義者が見た満洲、パレスチナ、マラヤ：マレー語紙『マジュリス』の分析から
３．学会等名 東南アジア史学会中部例会『東南アジアのイスラーム・メディアから見た世界：1920～1930年代を中心に』
４．発表年 2017年

１．発表者名 Tsuboi Yuji
２．発表標題 Singapore as a centre of the Malay media space during the colonial period
３．学会等名 National Library of Singapore（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 坪井 祐司	４．発行年 2019年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 112
３．書名 ラッフルズ	

１．著者名 山本博之、坪井祐司編	４．発行年 2019年
２．出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	５．総ページ数 67
３．書名 『カラム』の時代X：マレー・イスラム世界における自然と社会	

１．著者名 古田元夫、坪井祐司、長田紀之、山本博之、西芳実	４．発行年 2018年
２．出版社 放送大学教育振興会	５．総ページ数 236
３．書名 東南アジアの歴史	

１．著者名 坪井祐司、山本博之編	４．発行年 2018年
２．出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	５．総ページ数 90
３．書名 『カラム』の時代IX：マレー・ムスリムの越境するネットワーク２	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『カラム』雑誌記事データベース
http://majalahqalam.kyoto.jp/

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関